

第2回セミナーを5月21日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場：愛知文教大学 ABUラウンジ

テーマ：1人1台クラウド環境を活用した学び — 春日井市での実践から —

講師：春日井市立高森台中学校長 水谷 年孝 先生

すべてがデジタルを有効利用している事例ばかりで、大変参考になりました。特に、職員同士がつながって、日常的に研修している取組は、すぐにでも取り入れたいと思います。また、デジタル活用の模擬授業も力量向上につながると思います。

やってみることで、試行錯誤の大切さを改めて感じました。ありがとうございました。

今回見せていただいた実践動画から、ICTを活用するにあたって、子どもたちが自主的に、行動に移し、学びを深め合う姿がとても印象的でした。これから、より深く、学習にICTを取り入れていくためにも、教師を目指す人たちが活用していくべきだと思いました。

春日井市の取り組みは、大変勉強になりました。ありがとうございました。一人ひとりが自分の知りたいことを大切にした授業が展開され、魅力的でした。クロームブックを活用するための基本操作はどのようにしたらいいのか。また、どれくらいの時間をかけて身につけていったのが気になりました。ぜひ、これからも自分の授業で必要に応じて効果的にクロームブックを活用させていきたいと思いました。

活用について、さらに私が知りたいのは、自分の担当する教科の活用授業例です。実践例が少ないので、ぜひ知りたいです。

さらに、同じ教育施設である塾ではどのようにタブレットを活用しているのかも気になりました。同時に、外国でもどのように活用されているのかも興味があります。

生徒たちが大人になると使用するのはおそらくExcel、PP、Wordなどだと思いますが、それらは小・中学校で使用する機会はあるのでしょうか。

ICT活用をしていくにあたって、まずは、自分がICTの利便さを体感していくことが重要だと感じました。自分は学生なので、学校で今働いている先生方の、生の声をお聞きして、今悩んでいることやどのように授業に活かそうかなどのお話を聴くことが、大変に参考になりました。

春日井市立高森台中学校の現在の取り組みの様子がとてもよくわかりました。大変先進的で素晴らしいと思いました。

研究の推進にあたって、日ごろの校務支援から先生方がその利便性に気づき、そのアイデアを授業に活かそうというところが、すごいと思いました。教師に浸透させる素晴らしい機会であったと思います。

今日のセミナーに参加して、教育観が変わるということを実感しました。文字どおり、大枠は教師が決めても、学ぶのは生徒だと実感しました。

水谷先生がいろいろ大変だと思いますが、楽しそうで、ワクワクしている感じを素直に受け取りました。これまで、コンピュータにかかわる大きな変革がありましたが、いつも、学びの質の向上にぶつかっていました。これを乗り越える機会につながるように思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「ICTを、授業だけではなく、日常で活用し、自己を創造できる人間を育てること」です。

ICTを普段使いして、各自の活用方法で課題解決に向かう姿を拝見し、自主的に課題に向かい、仲間と協同して解決する力が育っていると思いました。ここまで育つには、何をして来られたのかがみえる気がしました。課題解決方法が身につき、こういう教育を受けて来た生徒たちがこれからの社会で活躍するのでしょうか。

反面、課題解決学習に向かない教科や単元もあると思います。例えば国語の文学です。文学の読みは多様です。それは授業デザインに関わってくることなのでしょう。

システマティックにすることで、何をすれば良いか見通しが立つので、自主性が育つと思います。それを主体性にしていくことをこれから工夫されるのだろうかと思いました。

コロナで休校中、クラウド活用で各校の情報共有された経験が授業作りに生きているという報告で、懐かしい記憶が呼び起こされました。形は違いますが、休校していても子どもたちの学びを途切れさせないように試行錯誤した経験は、その後のICT活用に生きています。ある意味、コロナのおかげです。世の中が大きく変わる、教育が変わる、そのきっかけがコロナであったことは確かだと改めて感じました。これから先、想定外のことが起きた時に、どう解決していくか、教師も生徒も一緒に考えられる学校にしていきたいと思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「組織ぐるみ」です。

春日井での実践なので、本で読んだり動画で見たり、知っていた内容もありましたが、さらに進化していることもたくさん知ることができて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

ICT教育をみんなのものとするための取組が非常に参考になった。デジタル化によって、よい事例が普及することは、特に効果的だと思う。

ただ、今は何回目かのICTブームで、一人一台が当たり前になった時には、今の意欲が特に子どもたちから失われることは間違いない。そうなったときには、質の高さ、本質的な学びないと、先がない。普及から質を忘れてはいけないと痛感する。

ICTを活用する意義やメリットを実際の成果から感じることができました。

ICT=有効なモノという認識を持ちすぎて、ICTを使うことが目的になってしまわないようにしなければならぬと感じました。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「ICT活用は、まず教職員が便利だとか有用だと感じ取ることが重要」です。

とても分かりやすく説明されていて、安心感がありました。

GIGAスクール構想の基礎的な内容から、授業改善、個別最適な学びとつながる話は、納得のいくものでした。

春日井のように大きな市での実践であり、他の市町も参考にできる部分が多々あるように思いました。積み上げてきた実践が自信となり、子どもたちの授業づくりへと発展していくのだと感じた。

とても良い学びになったように思います。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「ICT活用は教師が便利さを実感することが大切」です。

生徒がすることを、まず教師が体験し、便利さを体感することが大切だと思いました。今ま

でも自分が使ってこなかったので、生徒にさせられないし、不安ばかりが先行してしまいました。今や、生徒の方が使い慣れていると思います。生徒と同じことを私自身もできるようにしたいと思います。そのためにも、日常的に ICT を活用することが大切だと思いました。簡単なことから少しずつでもできていけたらいいなと思います。

今日は、実際の動画からどのように活用されているのかがとてもわかりやすかったです。そこまでに至る過程も気になります。また、情報モラルについても生徒の意識はどのようなのかも気になりました。しかし、学ぶことが楽しいと思える生徒が増えることはすばらしいことだと思います。学校を卒業しても、生涯にわたって自ら学び続けられる生徒を育てていきたいと思いました。今日はいろいろなことを教えていただき、本当にありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことを ひとつ挙げると、「使ってみること・やってみること」です。

水谷先生、学び合う学び研究所のみなさま、今日はありがとうございました。

お話を聞き、実践を拝見し、「学習観や授業とは、教師とは」など考えさせられるもの、新しい発見が多くありました。

動画を試聴する中で、子どもたちが「学び方を学んでいる」ことが印象的でした。どう学ぶのか自分（自分たち）で決め、実践していく。学校を出た後の社会でよりよく生きていく上で大切になる力の一つだと思います。生きる ICT の活用実践だと感じました。

自分の学校のどこで（授業や業務）生かせそうか考え、実践していきたいと思います。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことを ひとつ挙げると、「協同、協働」です。

水谷先生ありがとうございました。水谷先生が生き生きと語られたお話が、子どもの姿・子どもの事実として表出されていました。仲間を巻き込み、ビジョンを共有して、協同して組織的にいつも成果をあげる水谷先生はさすがです。水谷先生のおかげで、懐かしい皆さまとも久々に会うことができました。これからもいっぱい學ばせてください。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことを ひとつ挙げると、「ICT に限らず、楽しみながら学ぶことの大切さ」です。

水谷先生、本日は春日井市の実践を通して、これからの学びの姿を教えていただき、本当にありがとうございました。

日常的に ICT を活用している高森台中学校の先生方によって、様々な形態の学びが生まれていることに驚くと同時に刺激を受けました。特に、クラウドを活用し、学びの履歴が共有化され、それが新しい思考につながっていく過程が素晴らしいと思いました。また、生徒たちが自分の学校の学びを語れるところも大変魅力的でした。やらされているのではなく、自らが主体的に取り組んでいるからこそ、自分の言葉で授業が語れるのだと思います。

メタ認知につながる取り組みについては、自分も以前から課題だと思っていました。自分の学びの履歴を自分でまとめ振り返ることで、日ごろの自分を俯瞰してみることができるようなれば、メタ認知も可能になると思います。現場に還元していきたい発想でした。

ICT の広がりや、授業における教師の役割を変えていきます。それを楽しみながら、次世代の授業づくりに取り組んでいきたいです。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「学習のゴールとながれ、しかたを明示し、授業を児童生徒に委ねること」です。

授業での児童生徒の姿を見て、朝の会・授業で、真に主体的に学ぶ姿が心に残りました。子どもの力を信じ、ゴールと手順は示しながらも、学ぶ過程ではICTを活用して個別の学びを保障したり関わりを促進したりすることがその姿につながっていると感じました。また、そうすることで授業者は子どもの学びの見取りや修正に力を入れられるのだと思います。ただ、子どもに委ねることは簡単そうで勇気のいることです。また、魅力的であると同時に教科の本質に迫る課題とゴールの設定が大事であり、子どもの学びを適切に見取ったり軌道修正や深まりにつながる問い返しをしたりができるか、授業者の力が試される部分になると感じました。

他にもICTを活用する上で、多くの示唆をいただきました。まずは、端末にあるものを教師がいろいろと使ってみてよさを実感し、活用できそうな場面をイメージし、授業で実践しながらよりよい方法を模索して、広げていきたいと思っています。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「情報を共有できる体験をどんどんさせることの重要性をまずは教師が理解し、生徒にも実感させる（ひょっとして生徒の方が先に実感しているかも）こと」です。

大学の先生、教職を志す大学生と意見交流ができたのが良かった。水谷校長先生のお話はまた聞く機会がありますが、何度か聞いて自分の中に落とし込んでいきたいです。本校の若手教員に本日のセミナーを紹介したところ参加してくれて、発言もしてくれてうれしかったです。ICTはやらない理由を探している段階ではなく、どうやっていくか考え進めていく段階だと思っています。少なくとも校長がブレーキにならないよう自分が学んでいきたいです。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「春日井と小牧、ハード面では大差がないと思います。一方でICTを活用した授業にこれだけの差があるのはどうしてなのか。「子どもに任せる、委ねる」勇気なのかなと思いました」です。

Mt.GIGAの山頂から観ることができる景色の一部を見せていただいたことに感謝です。今日観た景色は別世界ではなく、ちょっとした意識改革と意識的な取り組みで実現可能な世界だと言うことを実感しました。イチローさんのCMのフレーズを思い出しました。「(I) 今始めれば、(C) ちょっと違う、(T) Tomorrow」まずは、職員会議などの校務の中でできることを探し、体験することを共有していけたらと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことをひとつ挙げると、「学習コンテンツを学ぶ授業から、学び方を学ぶ授業への大転換が進んでいること」です。

4年前にフィンランドの学校を視察した際に、日本の学校の授業とは全く異なる学びが行われていることに大きな衝撃を受けましたが、そのとき見たことの多くが春日井市の小学校、中学校で既に実現していることに今日また大きな衝撃を受けました。人工知能などの技術が普及していく中、子どもたちが将来、幸せに生きていくために必要な資質・能力が大きく変わっていく中、学校教育も大きな変化をしていかないとはいけませんが、そこでは教科書の内容を学ぶ従来の授業から、子どもたちが学び方を学ぶ授業への転換が行われていると感じました。

今回のセミナーを通して、改めてICTを活用する意義を知ることができました。私が最も有

効だと感じたことは、データを共有できるということです。

ICTを活用することで、授業中に提示する資料、動画を共有することができます。そうすると、子どもが必要に応じて、再度見ることができるのです。「必要に応じて」というのが重要で、これは個別最適な学びに繋がると思いました。

さらに、欠席した児童生徒や学校に通うことが難しい児童生徒にも、資料や動画を共有できます。インフルエンザで1週間程欠席した時、机の中にプリントが大量に入っていて、泣きそうになったことを思い出しました。何の授業か分からないし、友達のプリントを写すしか方法がありませんでした。次の授業はこの続きだけど、大丈夫かな？と。

データの共有によって、このような児童生徒が、自宅で取り組むことができたり、後から自分で資料や動画を見ながら授業で何をやったか知ったりすることができます。「遅れ」は、学校が嫌になるきっかけになります。「遅れ」を感じさせないようにすること、これは凄く重要です。ICTを活用することは、授業中の活動だけでなく、授業外での学習にも有効であるということを感じました。

「教えるという意識を捨てる」

今回のセミナーで一番印象に残った言葉です。確かに、先生が準備した情報以外のことを生徒が集めてくることは、授業の展開的に不安だと思います。

しかし、それを恐れるのではなく、子どもと一緒に学びを楽しむ姿勢が大切なのです。教科書を軸の資料として使い、自然と情報を集めたくくなるような課題設定を授業で行っていけば、本筋から外れた情報収集は行われにくくなると思います。結果として、先生からの情報も減り、自ら情報を集め、活用する力をつけることにも繋がるのではないかと考えました。

子ども達をICTの海に放つには勇気がいりますが、自分も「多少の事故はしかたない」くらい心の余裕を持ち、子どもに任せる場面を子どもの実態に応じて増やして行けたら良いなと思いました。そのために、まずは自分達が様々なツールや活用法を試し、知識の引き出しを増やしていきたいと思っています。

また、これからは子どもが興味を持てる課題設定について、また、情報の正誤性を判断する力は日頃からどのように育ていけばよいのかについても考えていきます。

このセミナーを紹介して下さった玉置先生、セミナーに関わって下さった先生方、そして共に学んだゼミ生、本当にありがとうございました。

今回のセミナーでは春日井市の学校のICT活用の事例を参考に、ICTを活用した学習について学びました。

春日井市では、現在小学生も中学生も学校生活のあらゆる場面でICT機器を活用しています。子どもたちがICTを活用している場面を動画で見せていただいたのですが、子どもたちが当たり前のようにICTを使いこなしている光景はかなりの衝撃でした。

いくつかの授業でのICT活用例を学んで感じたことは、ICTは個別学習にも協働学習にも大きな効果をもたらす、子どもたちの問題解決能力を育てていく上で重要なツールになりそうだということです。

国語や社会の授業で、個人で情報を収集し思考を整理していく時には、ICTを使うことで、扱うデータ量が増え、児童生徒の活動時間も増えるので段々と情報活用能力が育成されていき

ます。また、その整理した情報や思考を周りとは簡単に共有出来るのでアウトプットの量・質が向上します。このような効果によって主体的な協働学習が可能になっているのだということを知りました。

また、数学の授業等子どもたちの知識・技能の習得状況別に個別学習を進めたい場面では、ICT で様々な教材を配信し子どもたちがその中から自分に適している教材を選んで取り組むことで、主体的且つ個々に寄り添った学習が可能になっているのです。

ICT の活用で「自ら学ぶ」体験を実現し、子どもたちが自分の力で課題を解決していくことで、問題解決能力が育っていくのだと思いました。

今回のセミナーで ICT を活用した学びの例をたくさん知り、果たして私にもこのような授業が出来ようになるのだろうかという不安も感じましたが、お話の中にもあったように、まずは自分が ICT を活用してみてその便利さを味わうことが必要だと思います。ゼミでも ICT を使った新しい企画が始まりそうなのでとってもワクワクしています！

セミナーでは春日井市での実践状況から GIGA 環境を活用した学びについて議論を深めました。2時間はあっという間でしたが、変わりつつある教育の実態を知り、さらに先生方との話し合いで内容を深められて、とても濃い時間でした！

まず、実際に ICT を活用している様子を見させていただいて、子どもたち自身で授業を進めたり、活動に取り組んだりする姿がとても印象的でした。特に Jamboard 活用することで自分や友達の思考が可視化され、対話へつながり、アドバイスをし合って思考を深めてくというサイクルが出来あがるので思考の質、聴き合う力のアップに有効だと思いました。

子どもたちに ICT をとりいれた活動を行うために、まずは私たちが日常的に活用し、活用のイメージをつかむことが大切だと学びました。

ICT の活用によって話し合いに参加しづらかった子もチャットや共有スペースを活用して話し合いに参加しやすくなり授業参加しやすくなると思います。加えて、自ら情報を集めることは、多くの情報が溢れている社会の中で暮らしていくために必要な力を身に付けられると思います。

今回のセミナーの内容から、スプレッドシートを教育で活用できないか、まずはゼミの中で試してみることにしました。私はスプレッドシートを使う機会があまりなかったのですが、実際に使ってみる中でメリット・デメリットを把握し、活用イメージをつかめるよう挑戦します。

このセミナーはお菓子も頂けて、先生方ともお話しでき、さらにとってもアットホームな空間なので大好きです。かりんとう饅頭美味しかったです。参加させていただき、ありがとうございました！